

「選択の自由」を選択的注意を通して検討する——Wu の議論を参考に

壁谷彰慶 (Akiyoshi KABEYA)

東洋英和女学院大学

自由意志論における「選択の自由」の発想（以下「選択」と略記）は、意志形成の一つの説明図式であるが、説明項となる「選択肢」が、行為者の関与に先立って潜在的な意志内容の個別化と外在化がなされる必要がある点で、反省を要している。それは、行為者の意志の制御が、状況依存的な仕方で、かつ意志内容の個別化にまで及ぶという実情をすくい取れないからである。そこで「選択」に対してとるべき対応は、この困難を適切に回避する意志形成の説明を与えることである。今回はこの作業を、「選択的注意」(selective attention)として知られる心的過程の検討を介して試みる。状況依存的な心的状態の制御でありながら、「選択」の日常的な自明性を支える一事実である点で、その過程の検討は、「選択」への対応の策定に貢献するからである。

選択的注意に関しては主に実験心理学の領域で膨大な研究蓄積があるが、本発表の問題意識との関わりから、心理学的知見の参照は最低限に留め、分析行為論で提示される Wu の一連の議論を中心にとりあげる。Wu が目指すのは、出来事間の関係に訴える「因果説」では描けない、遂行過程の状況変化に応じた制御をとらえた行為理論の提示である(CMMP: 51-52, 63-65)。彼が重視するのは、状況下で直面する諸個物や諸情報のうちから、自身の動機に見合うかたちで、適切な知覚的「入力」を選出し、潜在的な複数の身体運動のうちから一つの「出力」を選出するという側面である。状況知覚と身体運動の間に「一対一」関係しかない反射運動とは異なり、意図的行為には、自身の意図や動機を構築原因とする仕方で(structurally cause)、知覚的「入力」と身体運動の「出力」との「多対多」関係の問題を解決(solve)し、その解決を実装する(implement)ことが必要だと考える(CMMP: 52)。こうした入出力の候補の組み合わせは「行動空間」(behavioral space)を形成しており、そこから「入力-出力の一対一の経路」を特定・選出する(specify, select)こと自体を、さらに「注意」と理解し、行為説明の中核に据えるべきだと論じられる。

しかし Wu の議論は、その新規性の反面、行為者と世界の相関を含めた全体像が不明瞭である。もし行動空間が実在論的に捉えられるならば、「選択」と同様の困難に見舞われる。だが、少なくとも末端に位置する「出力」については、潜在的な身体運動

を観念論的に理解可能にする主張もなされている。知覚入力を選出は、特定の身体運動の出力を結果的に誘導する仕方で調整される(CMMP: 61)、といった、意図された出力(身体運動)から逆算する仕方で知覚入力の制御をとらえる図式も示されるからである。この図式を前面化すれば、行為者がなす「行動空間からの経路の選出」とは、状況内でなすべき身体運動(出力)の特定とそれから逆算した状況内の知覚(入力)の制御ということになる。この制御の中核は、身体運動の表象を獲得することと、状況内の知覚入力を、身体運動表象を反映しつつ制御することにあると言える。

だがこの考えに対しても、獲得される身体運動の表象とそれに基づく知覚内容のそれぞれについて、何らかの潜在的な対象の外在化が必要であり、また知覚内容については主体を含めた世界の側での対象の個別化に影響されるのではないかという懸念がある。これら二点の懸念については、Wuの依拠する「選択的注意」について、その過程の細部をとらえるかたちで注意を読み換えることで対応できると考える。手がかかりとするのは、「潜伏的(covert)注意」の状況である。感覚器官の制御を伴わないその種の注意が能動的になされるとき、一般には、同一の知覚内容の一部に対する顕著さ(saliency)の制御がなされるのだと説明される(WCA: 97ff., 101ff.)。だが、知覚内容のどの部分に対して顕著さを特定するのかに関して能動性が発揮される点においては、注意対象の個別化は、主体に依存していると考えることが可能である[個別化の主体依存性]。また、そこでの顕著さの変化を、潜在的対象のなかでの顕著さの割り当て先の変更としてではなく、単一の項(視覚的注意における中心窩に相当する項)がもつ内容の変化として捉える見方をとることもできる[潜在的対象の外在化の不要性]。

この見方は、意図的な仕方でなされる選択的注意の初段階では、記述的思考に適合する対象を特定することで直示的思考を抱く必要があるとする論点(WCA: 118ff.)とも関連する。そこでの注意対象の個別化には、意図された基礎的性質の同定が伴われると考えられる。この基礎的性質を、当人の賛成的態度の一種と捉えることで、注意に関する以上の見解は、「選択」に対する代案の適切な方向性を示唆すると論じたい。

[CMMP]: Wu, W. (2011a), "Confronting Many-Many Problems: Attention and Agentive Control," *Nôus*, vol. 45, pp. 50-76.

[WCA]: Wu, W. (2011b), "What is Conscious Attention?," *Philosophy and Phenomenological Research*, vol. 82, pp. 93-120.